

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

1. 学校概要

学校名 豊橋市立細谷小学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒441-3113
愛知県豊橋市細谷町字中ノ島47番地の1

E-mail hosoya-e@toyohashi.ed.jp
Website http://hosoya-e.toyohashi.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 45名 女子 53名 合計 98名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校では、これまでに地域の豊かな自然や産業との関わりを中心として、農業体験やそれに伴う食育学習に取り組んできた。そこで、さらに地域を見つめ直し、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育（E S D）を推進し、地域を理解し、地域の方々と手を取り合っって地域の環境を大切にできる子の育成を旨としたと考えた。

特に農園活動では、以前から学校農園で季節の野菜を育て、食してきた。農家の方、PTAの方、老人会の方の協力・支援を受けながら、子どもたちは栽培の楽しさや苦勞を知るとともに、収穫の喜びを感じることができた。また、これらの活動を支えてくださった方々への感謝を表す会を催し、お世話になった方に対する親近感や尊敬の念を抱いてきた。

これらの活動をE S Dの活動推進に結びつけていくために、生活科・総合的な学習の時間を中心に教育課程を見直し、これまで以上に地域の自然や産業、人々の関わりを意識的に教育活動に組み込んでいきたい。そうすることで、ふるさと細谷を愛する心が育まれ、地域の環境にも目を向け、「大好きだよ、緑いっぱい細谷」と胸を張って言える子が育っていくと考えた。

そのために、本校では29年度は次の3つの活動を柱として学習を行った。

① ふるさと細谷の環境や命を見つめる活動

・ 4月25日(月) 海岸避難訓練

地震による津波発生の際に迅速に避難できるように海岸からの避難訓練を実施した。

・ 6月17日(土) 細谷いのちのプロジェクト

命について考える日の一環として、本年度は、防犯教室を行った。不審者が学校へ侵入した場合、学校はどのような対策をとったらよいかという訓練や、子どもたちが自分の命を自分で守るためにどのような行動をとるとよいかを考えたり、実際にロールプレイを行ったりした。

その後、全校児童・PTA・地域が一体となって、砂浜での活動を実施した。まず、砂浜での海岸清掃活動を通して、海岸の自然を守ろうという意識を高めた。その後、砂の造形活動を行った。子どもたちは6年生をリーダーとする縦割り班で活動し、保護者や地域の方が応援をし、作品作りに汗を流した。

② ふるさと細谷の自然を活かした食農教育活動

学校農園で春野菜、冬野菜の栽培を行う。春の畑の準備には、地域に住んでいる畜産農家の方から堆肥をいただき農園にまいた。その後、耕うん・畝づくりを地域の方の協力で行った。それぞれの学年で栽培する作物を決め、苗や種から育てていった。地域の方の協力もあり、どの学年も豊作であった。収穫後の作物は、学年でそれぞれ調理し、食べることができた。

また、今年度も地域の方の畑をお借りし、全校でサツマイモの栽培も行ったサツマイモは、縦割り班で植え付けを行い、収穫後は家庭へ持ち帰ったり、学年ごとにサツマイモ料理を考えたりしておいしくいただいた。

5年生は昨年同様、地域の老人会の方の田を借りて稲作を行った。今年度は収穫後、販売の方法を話し合っ地域の方に買っていただいた。また、お世話になった老人会の方々を招いておにぎりを作って楽しく会食することができた。

③ 細谷の地域・学校を花いっぱいにする活動

パンジー・ビオラを種から栽培し、地域の施設やお世話になった方々にプレゼントする活動を続けている。児童は、9月に種まきを行う。小さな種の一粒一粒を丁寧に捲いていく。そして、10月にはポット鉢に植え替える。

地域の施設にはポット鉢に植え替えたものを50鉢程プレゼントし、植えていただくようにしている。例年、花が咲き始めると10号鉢に寄せ植えをして、お世話になった方々に「感謝する会」でプレゼントをしている。さらに、「子ども110番の家」の方や農園でお世話になった方にもプレゼントをしている。今年度も花いっぱいの細谷校区になるように地域へパンジーの花を届けた。



① 親子で砂の芸術コンテスト



② 大きなおもちがとれました
楽しい収穫のとき



③ パンジーの種まき
一粒ずつ大切にまきます

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

図書室にある食育や植物栽培に関する書籍多数

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

E S Dの活動推進に結びつけていくために、生活科・総合的な学習の時間を中心に教育課程を見直し、これまで以上に地域の自然や産業、人々の関わりを意識的に教育活動に組み込んでいく。そうすることで、ふるさと細谷を愛する心が生まれ、地域の環境にも目を向け、「大好きだよ、緑いっぱいの細谷」と胸を張って言える子が育っていくと考える。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校は単学級であるため、全校体制での活動を中心に、各担任が授業内容に効果的に取り入れることで学習効果を上げている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校の教育活動について児童・保護者・職員・学校評議員を対象としたアンケートを実施している。成果として、縦割り班老人会の指導による米作りやサツマイモの栽培など、地域の人材が活用できていること、地域の方々には、「感謝の会」を子どもたちの手で開いて、気持ちを伝えることができていることが挙げられる。課題としては、栽培活動に充実感は得られたが、郷土を愛する心につなげるために、授業展開のさらなる工夫などが必要だと考えられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校の活動は学校新聞に取り上げ、ホームページに掲載していますが、ESDの活動としての発信は特別にしています。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域コミュニティとのつながりはありますが、積極的なネットワーク形成はしていません。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

そこまで進んでいないのが現状です。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

縦割り班を活かして活動することが多く、高学年が主体的に低学年をリードする様子が見られるようになった。また、地域との関わりは活動を通して、密接なものとなっている。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

子どもからの主体的な学びになるようにカリキュラムを工夫していく。
1～3年は生活科や社会科と絡めて野菜作りを継続、高学年は縦割り活動や行事、また地域との関わりがもてる活動を意識して取り入れていくようにしたい。
具体的には、29年度と同じく、
① ふるさと細谷の環境や命を見つめる活動（細谷いのちの日、海岸活動）
② ふるさと細谷の自然を活かした食農教育活動（春・冬野菜の栽培）
③ 細谷の地域・学校を花いっぱいにする活動（パンジーの花づくり）
を継続し、内容の充実を図る。